

## ②「教育と福祉が連携した支援体制整備事業

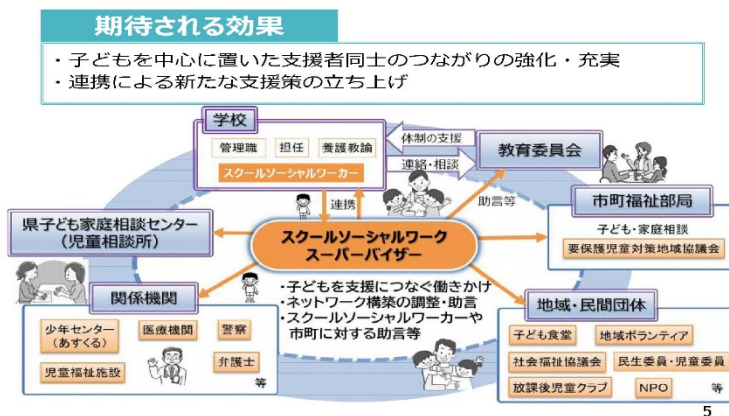
～教育と福祉のよりよい連携のあり方を目指して～

滋賀県教育委員会 幼小中教育課  
生徒指導・いじめ対策支援室  
指導主事 大島淳史  
スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー-上村文子

### ○不登校の状況と背景

令和2年度、公立小学校の不登校児童数・在籍率とも過去と比べ最も高い値、公立中学校では不登校在籍率が過去最高、県立高等学校でも不登校在籍率が全国と比べ高い水準となっている。また、児童虐待相談件数は、直近の10年間で約2.8倍に増加している。困難な状況にいる子どもへの支援は、日々子どもに係わっている学校現場と福祉部局の行政機関、家庭、地域や民間団体等の全ての主体が連携して取り組むとともに、未然防止や対応強化に向けた取組をさらに充実していく必要がある。

### ○期待される効果と事業のイメージ



### ○活動事例

- 不登校児童生徒への支援の一つとして、フリースクールを実際に訪問し、収集した情報をもとに一覧表を作成し、各学校に情報提供した。
- 生活困窮支援の食料支援（フードバンク）と学校をつなぎ、破棄される食品受験生などの家庭学習の夜食に持って帰ってもらえる仕組みを作ってモデル的に実施した。
- 子ども食堂と連携し、臨時休業で余った給食の食材を使ってお弁当を作り安否確認の家庭訪問の時のお土産として届ける仕組みをつくった。

## ○活動の実際(スーパーバイザーより)

- ・ 訪問型緊急食糧支援「子ども弁当」に期待される効果  
親が福祉を肯定的に捉えてくれる  
休校解除後子どもが地域の居場所や子ども食堂につながりやすくなる
- ・ 市の「子どもの貧困対策計画」各事業の翻訳機能と組織間の埋め合わせ
- ・ ソーシャルワークを活用した、次年度に続く「持続可能な体制整備」
- ・ 子どもの夕刻を支える「プロジェクト」  
ヤングケアラー・不登校支援「第三の居場所」社会資源開発体制整備

## ○成果と課題

### 成果

- ・ 県スクールソーシャルワークスーパーバイザーが関係部局に働きかけたことで、市のニーズに応じた児童生徒への支援体制を構築することができた。
- ・ 支援体制を構築する過程において関係部局の連携がより強くなり、その後の支援関係に好循環をもたらした。

### 課題

- ・ どの地域においても、教育と福祉が連携した支援体制整が進むようにすること。
- ※モデルケースの分析と検証を行い、市町教育委員会に啓発する予定。